

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・売上は、2024年比で109.0%、2023年比で125.3%、2022年比では205.7%、2021年比で655.2%、2020年比で891.5%、2019年比で138.7%となっている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・このところ、域外事業者による飲食店の出店が目立つようになり、やや明るい傾向がみられる。既存事業者の元気が余りないため、良い刺激となることを期待している。
	○	スーパー（店長）	お客様の様子	・猛暑対策という面もあるが、衣料品部門や住宅余暇部門の売上が伸びている。これまでの不要不急の商品を後回しにしていた状況がやや改善している。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・6月以降の気温上昇の影響で、アイスや飲料などの夏物商材の販売量が回復している。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・猛暑の影響で、飲料やアイスなどを買い求める客が増加している。
	○	コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・売上はやや良いものの、単価の高い商材の購買動向が落ち込んでいる。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・非常に気温の高い状態が続いているため、飲料、アイスなどの購入客が増加しており、景気がやや良くなっている。8月も暑い日が続くとみられるため、このまま景気の良い状態で推移すると期待している。
	○	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・例年より気温が高いこともあって、これまで買い控えがみられていたクールビズ商材が前年比120%と伸びており、売上を押し上げている。サマースーツの動きも良く、客の買換えが一気に進んでいる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・管内を訪れる観光客が増えていることで、景気は良好に推移している。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏季観光シーズンに入ってきたことから、外国人観光客も含めて、道外からの観光需要が増加している。ただし、外国人観光客については、7月に日本で災害が起こるといふ予言の影響で、香港を中心に訪日旅行を控える動きがみられる。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・気温が高くなると、タクシーの利用が増える傾向にある。7月は例年よりも暑い日が多いことから、タクシーの利用が増加している。また、ビヤガーデンが始まり、人出が増えていることもプラスである。タクシー1台当たりの売上は、前年比で10%増加している。採用が順調なことで、乗務員は前年から40人増加している。この結果、タクシーの稼働台数は前年比で30%増加しており、会社全体の売上は前年比で40%の増加となった。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月から新たに始まった商業ゾーンの集客を期待していたが、猛暑日や真夏日が続くなど、例年になく暑さとなったこともあって、地域住民及び郊外客の来街が伸びなかった。当区域を訪れる来街者は高齢者が多いことから、気温上昇による身体への負担が大きく、来街頻度が低下したものとみられる。外国人観光客や道外観光客については、出歩いている姿は見掛けるものの、買物袋を持っていないことが多い。例年であれば、7月頃から行列ができる飲食店も、行列のできる日が少なくなっている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月5日に大地震が起きるといふ予言の影響が大きく、インバウンドが大幅に減少している。影響が大きかった店舗では、3割程度の減少になったとの話を聞いている。ただし、最近は落ち着きを取り戻しており、例年並みの状況で推移している。国別にみると、中国からの観光客が大幅に減少している。ただし、それが予言の影響によるものなのか、中国経済の影響によるものなのか、現時点では分からない。

<input type="checkbox"/>	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・インバウンドや道外客も含めて、全体的に来客数が減少傾向にある。特にインバウンドは円安の効果が薄れてきている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	それ以外	・来客数が回復しているものの、客単価が低下傾向にある。猛暑の影響で、飲料や冷菓、乾麺などが好調な一方で、即席麺、シリアル、菓子類が不調である。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・継続的に安い商材を買っている客が多く、消費は厳しい状況にある。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・暑い日が続いていることで、引き続き冷感素材、涼感素材の商材がよく売れている。8月も猛暑が続くとみられることから、こうした傾向が続くことになる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・登録車両がやや増えていることから、売上が前年を上回っている。このままの状況が続けば、景気が良くなると期待している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注量は低調に推移しているものの、中古車及びサービス部門の販売量は前年並みで推移している。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の前年比に変化がみられない。客の購買動向も変わっていないため、景気は変わっていない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	単価の動き	・石油製品価格に大きな変動がみられないことから、景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来店客の動きに大きな変化はみられない。例年であれば、夏休みやお盆を前にして、来客数が増えてくる時期ではあるが、見込みも厳しい状況にある。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・客1人当たりの販売額は増加しているものの、来客数が減少していることから、全体的にはほぼ横ばいで推移している。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客やイベント関係者の利用状況について、特に変化がみられなかった。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	販売量の動き	・乗務員不足が顕著であり、思うように稼働を上げられない状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・新たに始まった料金プランや通信端末を活用したサービスの需要が拡大している。その半面、節約志向の高まりから、料金プランやサービス内容の変更に対して、不満を感じる利用者が多く、他社に流出する動きが想定を上回っている。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	お客様の様子	・食品を始め、8月に各種商材が値上げするとの報道がみられることから、客が出費を控える傾向が続いている。特に美容用品の売上が低迷している。
<input type="checkbox"/>	その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー]（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期を迎えるなか、輸送量は旅客、車両のいずれも増加している。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・住宅着工数が増えてこない状況が続いているにもかかわらず、住宅の単価が下がっておらず、逆に上がっているような状況にある。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客をみると、最近になって1年ぶりに再訪する客が多くみられる。再訪客のほとんどがマンションを購入していることから、1年前は高いと感じた価格が今では妥当なものとなっていることがうかがえる。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・建築単価が高止まりしており、住宅ローンの金利も上昇していることから、景気は厳しいまま変わらない。
<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年になく異常な暑さの影響で来客数が減少している。
<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子から、景気が上向いているとはいえない状況にある。
<input checked="" type="checkbox"/>	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・選挙の前後は客の動きが悪くなる傾向があることから、7月の景気はやや悪かった。

▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・商材の値上げや消費マインドの低下などの影響により、地元客による購買が引き続き苦戦している。さらに、直近は記録的な酷暑の影響により、来客数も大きく減少している。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・一般人にとって、現在の物価高は厳しい水準にある。客の所得もそれほど増えていないことから、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・米国の政権の動向に振り回されている。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・米に加えて、豚肉、鶏肉、牛乳、卵など、食べる頻度の高い食品の値上がりが続いていることで、客の買物の仕方がシビアになっている。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高騰の影響で客の節約志向が強まっており、おしゃれを楽しむ余裕がなくなっている。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・物価が高止まりしている影響で、個人消費が低迷している。さらに、メーカーの経営状況に関する報道が、客の消費マインドを押し下げている。当面、販売量の増加は見込めないため、一層の経費削減が必要になっている。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・道内の各拠点の販売状況をみると、良いところでも計画の90%、悪いところだと50%以下となっており、全体的に厳しい状況にある。要因としては、夏枯れによる影響が最も大きいとみられるほか、新型車の発売がないことや低金利キャンペーンが終わったことなども影響している。
▲	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・受注台数及び来客数が減っている。
▲	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・例年になく暑さと物価高騰によるマイナスの影響が重なり、来客数が減少している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・暑い日が続いているなか、ランチの売上が前年を下回っている。記録的な猛暑の影響による食欲不振なのか、物価高騰の影響による外食控えなのか、判断は付かないが、全体売上も前年を下回りそうなことから、景気はやや悪くなっている。先日、友人がいる高級ホテルの和食店に行き、ウナギ料理を頼んだところ、メニューの写真よりも小さなものが出てきた。友人に尋ねると、食材原価率が厳しくなっているそうなので、繁盛店ならではの価格設定の難しさをうかがえた。
▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・7月は参議院選挙があったことから、暇な日が多かった。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・国内客もインバウンドも減少傾向にある。特にインバウンドは、団体客を中心に7月5日の大地震の予言による影響が大きく、回復がみられない状況にある。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・インバウンドの動きが悪い。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・物価や原材料価格が高騰していることで、旅行控えの動きがみられる。また、貸切バス料金やホテルの宿泊料金が高騰していることで、旅行費用も高騰している。これらの要因が重なり、需要が低迷している。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・例年と比較して、年末年始の旅行に関する質問や問合せの件数が少なくなっている。また、契約済みの案件について、旅行代金の増額が難しい案件が増えていることもマイナスである。
▲	観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月頃は、豪華クルーズ客船の寄港が相次ぎ、インバウンドの富裕層を中心ににぎわいがみられたが、7月はクルーズ船の寄港が落ち着いている。それ以外のインバウンドについては、特に団体客が来日を控えており、来たとしても少人数にとどまるなど、停滞感がみられる。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高の話をする客がととも増えている。

	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・毎週のように、様々な物の価格が上がっており、当店もほぼ全ての商品の価格が上がっている。価格がどんどん上がっていることで買い控えが発生しており、客の買物の仕方も変わっている。最近気温が高いため、日中の客が減り、夕方又は夜の客が増えている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・記録的な猛暑の影響で、飲食店や商業施設などが次々と臨時休業している。住民も外出を控えているため、タクシーにとっては大きな打撃を受けている。一般的には、暑さが景気を刺激するといわれるが、度を越すとその逆となる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・猛烈な暑さによる熱中症対策から、建設現場における作業効率の低下が否めない。その反面、好天続きの恩恵で工程は計画を上回るペースで進んでいる。全体的にみると、順調に出来高が積み上がっている。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・本州向けの生乳は堅調に推移している。また、紙パルプの好調も継続している。飲料容器も回復している。農作物関連は、新物受入れに向けての在庫調整輸送で大きく動いた。
	○	輸送業（支店長）	取引先の様子	・取引先との面談で、新規案件などの話を多く聞くことができた。また、飲料などの夏物商材の荷動きも多くみられた。ただし、猛暑の影響で、今後、農作物の収穫状況が悪くなるのが心配される。
	○	広告代理店（従業員）	それ以外	・米国との関税交渉がまずまずの結果となったことはプラスである。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・地域などによる差異はあるものの、国内建設投資が引き続き堅調に推移している。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・青果物の端境期であるため、景気は変わらない。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると、売上は減少している。ただし、前年とそれほど変わっていないことから、景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・案件はあるものの、人材不足の影響で契約できずに流れることが増えている。
	□	通信業（営業担当）	それ以外	・販売量は微増傾向にあるものの、仕入価格の上昇が顕著なことから、3か月前と比較した景況感は横ばいである。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・物価高騰の影響で、いろいろな経費の負担が増えている。人員も減っているため、売上の増加幅が縮小している。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・建築鉄骨関連の仕事について、依然として明るい話題が少ない。また、お盆休みなどで8月の稼働日数が減ることから、ベース商材の流通状況が悪くなっている。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上の伸びが鈍化している。為替の影響で、インバウンドの客単価が低下していることがうかがえる。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月及び5月の新築住宅着工棟数が前年の50%にとどまっている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・道内企業を対象とした調査で、景気が回復していると判断した企業よりも、悪化していると判断した企業の割合が多くなった。現時点で景気が回復していると判断した企業の割合は2割程度であり、景気回復の時期は2026年以降とする回答が半数を超えている。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・例年であれば、不動産業や建築業にとって7月は、お盆休みを控えて、仕事量が多くなる時期だが、建築資材価格の高騰などにより、仕事量が例年の8割程度にとどまっている。また、新築建物については、改正省エネ法の影響で進捗が遅れが生じている。
▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・司法書士業務全体としてはそれなりの取扱量があるものの、不動産取引や会社取引に基づく業務の販売量が3か月前よりも減少していることから、景気は停滞している。ただし、前年と比べるとやや良い状況にある。	

	▲	その他サービス業 [ソフトウェア開発] (経営者)	取引先の様子	・発注が滞っていることから、景気はやや悪くなっている。
	×	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・7月の販売量は前年比マイナス8%となっている。3か月前の4月の販売量は前年比プラス26%だったことから、景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は引き続き堅調に推移している。3か月前と比べると、求人数は30%増加しており、企業の採用意欲の高さがうかがえる。企業への人材の提案数も同様の増加幅で推移しているものの、内定者数は3か月前よりも減少している。企業は人材不足であっても、選考基準を下げおらず、スキルの高い人材を渴望していることがうかがえる。
	□	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・前年と比べると、求人件数がかかなり減少している。特に建設業、貨物運送業の減少が目立っている。インバウンド需要が生じているといわれているものの、北海道は観光関連や小売にも勢いがいない状態である。
	□	求人情報誌製作会社 (編集者)	周辺企業の様子	・長年、当地の若者ファッション文化をけん引していたファッションビルが7月末で閉店することになり、若者の流出が懸念される。消費行動の変容もあって、地域の小売環境は厳しさが続いている。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年比で14.6%の増加と3か月ぶりに前年を上回ったものの、月間有効求人数は前年比で0.1%の減少となった。求人数の増加が継続している状況ではないことから、景気は変わっていない。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・当地における6月の有効求人倍率は0.78倍であり、前年を0.02ポイント上回った。
	□	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・企業から展望の明るい話が聞こえてこない。例えば、建設業からは、仕事があっても人手が足りず断っており、収益が上がらないといった話を聞く。運送業からは、残業規制の関係もあって仕事量をこなせないとの話を聞く。いずれも人手が不足していることが要因となっている。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・求人の動向をみると、正社員の求人数が増加している一方で、パートの求人数が若干減少している。人手不足感の強い産業、業種はあるものの、全体的な景気は変わっていない。
	□	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・求人数は増加傾向にある。特にフルタイムの回復が目立っていることから、企業の採用意欲が高まっていることがうかがえる。地域経済が持ち直している兆しと捉えている。
	▲	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・求人数は、業種を問わず横ばい又は減少傾向にある。
		×	—	—